

特集

町長と語る会結果報告

広聴事業の一環として、10月1、21、25日の3日間にかけて、計4回「町長と語る会」が開催されました。公募による参加者と町内で活動する各種団体から推薦を受けた代表者が、それぞれ「子ども・子育て」「健康・福祉」「産業・観光」「生涯学習・地域力」を主なテーマとして、町長と直接話し合いを持ち、多くのご意見・ご提言等が出されました。いただいた貴重なご意見等は庁内で検討し、今後のまちづくりに反映させてまいります。

主な意見等と回答(要旨)

子ども・子育てについて

問インフルエンザ予防接種助成金をいくらか町で負担して欲しい。

答インフルエンザ予防接種には、ある程度の予防効果が認められています。幼児の場合、接種をしても約7割の方が発症すると言われています。予防接種だけではインフルエンザの感染を防ぐことは難しいことから、町では、手洗いや咳エチケットなどの基本的な感染症予防対策の周知を行っております。予防接種の助成金については、予防接種の効果や国の動向などに注視しながら、検討していきます。



問 小学校特別支援学級の教員を増員してほしい。

答公立小中学校の教職員、特別支援学級の教員は、児童・生徒数をもとに配置されています。上三川町では、町独自に本来の教員数より29名多くの特別支援に関わる教員が配置されています。障がいを持つ児童・生徒には手厚い支援が必要ですので、今後も、県に要望を続けたいと考えています。

健康・福祉について

問かみたんメールをもっと普及させた方がよいのではないか。
答かみたんメールにつきましては、「広報かみのかわ」や「町ホームページ」への掲載、成人式や自治会長会議でのチラシの配布等を行っています。また今年度からは、新たに「町有バス等利用研修の参加者」への登録のお願いも行っており、今後も、更なる推進を図っていきます。

問 障がいのある方が緊急時に必要な支援等を周囲に示す「ヘルプカード」を作成する考えはないか。

答「ヘルプカード」は、平成24年に東京都がガイドラインを定め、県内では、宇都宮市が昨年9月にいち早く導入し、配布を行っています。このカードは健常の方にもその存在を広めていくことで、その効果がより発揮されるものであり、本町での導入につきましてはお向きに検討したいと考えています。

問 認知症の講演・研修を小中学生に行うとよいのではないか。

答各小中学校では、高齢者や障がい者、認知症理解のための福祉教育に取り組んでおり、社会福祉協議会と連携し、認知症キッズサポーター養成講座や介護施設の訪問などを行っています。さらに今年度は、本郷中学校が、「福祉・介護のお仕事出前講座」を実施する予定です。今後も認知症の理解を含めた福祉教育をさらに推進し、ともに生きることができる社会を築いていきたいと考えています。

問「上三川ふれあいの家ひまわり」にシヨートステイを受けてくれるよう打診してほしい。

答「上三川ふれあいの家ひまわり」は計画当初より、障がいをお持ちの方の日中活動の場と位置付けており、宿泊を想定した施設となっておりませんので、「ひまわり」においてシヨートステイの実施は難しいというのが現状ですが、シヨートステイできる事業所の重要性は認識していますので、「ひまわり」に限定せず、検討していきたいと思えます。



問健康診の受診率、受診率向上のための取組について教えてください。

答健康診断の受診率は、平成20年度に特定健診を開始した際には、27・8%でしたが、平成26年度は44・3%と大幅に増加しています。今後受診率向上のために、健康診断を受けやすい環境の整備とともに、健康マイレージ等の実施による「健康」に対する意識や意欲を高められる様な施策に取り組んでいきたいと考えています。

産業・起業支援

問空き店舗対策について町としての考え方を聞かせて欲しい。

答上三川町の商店は店舗と住居が同じ建物にある「店舗併用住宅」が多く、店舗部分を使用していないままも住居部分は使用しているため、店舗のみ貸し出すということが難しい状況にあります。しかし、今年度商工会が行う予定の聞き取り調査に町も協力し、空き店舗の活用等の対策を考えていきます。また、上三川町、商工会、県、町内金融機関で組織する「創業支援ネットワーク連絡会」においても、空き店舗活用時の支援などを行う予定です。

問新国道4号沿いに道の駅のような大型の生鮮野菜果物などを扱う施設をつくる考えはあるか。

答道の駅と併設する形での大型農産物直売所の設置につきましては、地域経済の活性化につながるものが期待されるものですが、設置する場所の選定や財源の確保、更には管理運営等、多くの課題がありますので、今後調査・研究していきたいと考えています。

生涯学習・地域力アップ

問生涯学習センターの計画やホールの設置について、現在の状況を教えてください。

答生涯学習センターについては、検討委員会などを作り、協議を行っています。平成32年の東京五輪開催を控え、建設需要が高まっている影響で、建設費が高騰していることから、東京五輪が落ち着くまでは凍結とさせていただきます。基金などの準備を行っています。また、ホール等の機能や活用につきましては、町文化団体による視察研修や調査研究を実施し、準備に向けた動きを継続していきたいと考えています。

問働くことに関する社会人と学生との交流事業についての考えを聞きたい。

答町では、中学校、高校、大学等からの依頼により、学生の皆さんに職業選択や職業観の育成などを目的に職場体験を受け入れていますが、また、学生を受け入れる側においても、受け入れを担当する若手職員などにとって、自らの職務を顧みて再認識する等良い刺激となつていきます。今後においても、次代を担う人材育成の一環として、貢献していきたいと考えています。



問地域力IIブランド戦略について意見を聞きたい。

答地域ブランドづくりの取り組みは全国各地で行われており、本町にも県内外に自慢したい農産物や加工品が数多く存在しています。それらの特産品等を情報発信することで、知名度の向上につなげるために、本町の魅力ある特性を活かし生産又は加工されたものの中から特に優れたものを「かみのかわブランド」として認定する制度の導入について、早期に実現できるように、調査、研究していきたいと考えています。

皆さんの声をお聞かせください。

町では、「町長と語る会」開催のほか、さまざまな方法により皆さんからの意見・ご提言を受け付けています。

『町長メール』は、上三川町公式ホームページから、『町政にあなたの声を』は、役場町民ホールに意見箱を設置しています。

ぜひ、皆さんのご意見・ご提言をお聞かせください。

▼問い合わせ先

企画課 情報広報係

☎ 9117

メールアドレス=
chouchoumail@town.kaminokawa.tochigi.jp